

# はじめに

私は、27年前に薬害エイズの被害者として実名を公表し、国と製薬会社を相手に訴訟を闘い、勝利しました。

日本では薬害が数多く起こっていて、スモン、サリドマイド、クロロキンなどが繰り返し引き起こされてきました。AIDSは、「後天性免疫不全症候群」と呼ばれ、HIVの感染に起因した病気です。感染経路は性的接触、血液媒介、母子感染の3つ。潜伏期間は平均12～13年、その間に免疫力が次第に低下していき、体がさまざまな感染症や悪性の腫瘍に侵されるとエイズ発症となります。

私は高校時代に将来のことを考えた時、裁判に加わり、なんとしても裁判に勝ちたいと思い、闘いぬきました。国を相手

の裁判は勝てないと言われていましたが、諦めないで闘いました。私は、当時の闘いを基礎に若い人たちにメッセージを残したいと考え、1996年4月に *Ryuhei* と題した英語のテキスト（副読本）を出版しました。全国の数十万の高校生たちに読まれ、大きな反響を呼びました。そのテキストの初めの「著者からのメッセージ」で、私は次のように訴えました。

『「仕方がない」という言葉を使わないでください。『まちがっていることはまちがっている』と言える人になってください。ぼくが高校時代やり残したことは、英語の勉強と本を読むことです。ぼくはできることをできるうちにしたいです』。

あれから四半世紀が経ちました。でもこの間、政治的な基本構造は変わってきていません。「いのちが守られる政治」が行われておりません。相変わらず「いのちより利益が優先される国」です。子どもたちが未来に夢をもて、高齢者や障



「龍平君を支える会」でスピーチ

がい者が安心して暮らせ、労働者は誇りを持って働ける国になっていません。家や学校から笑い声が聞こえ、安全な水と食べ物、豊かな自然に守られて「ありがとう」が自然に言い合える社会になっていません。

私は政治を根本から変えようと2007年7月に参議院議員になりました。すべての国民の命が等しく守られる社会を実現しようと努力してきました。2011年3月に起きた東日本大震災・津波では被災者の権利を守る「子ども・被災者支援法」を仲間の議員と一緒に取り組み成立させました。また薬の安全確保のため「臨床研究法案」の成立に尽力しました。「利益よりいのち」をモットーに、その他教育や医療、介護や保育、難病や障がい者のための課題に、最近「ローカルフード法」の成立に取り組んでいます。

今年2022年、ウクライナ戦争、コロナ禍で日本を含む世界が揺れています。「尊い人間のいのち」が毎日数千という巨大な単位で奪われていっています。この四半世紀の間にインターネットが急速に発達して「情報戦争」が行われ、私達は何が正しく、間違っているかを見極めるのが困難になってきています。でも困難な時代だからこそ、いのちを守るという原点に立ち返るのが必要になってきているのではないのでしょうか？

薬害エイズが世間を揺るがした1996年に出版した *Ryuhei* から四半世紀経ったこの2022年に前作 *Ryuhei* を改訂して政界入りして以降に取り組んだ政策と活動を紹介することにしました。この四半世紀に日本や世界の政治は社会的弱者や次代を担う子どもたちのいのちを大切にきてきたらどうかを聞きたいと思います。今、私自身は「いのちより利益優先」の旧態依然の政治が繰り返されているように感じてなりません。この際、国民特に次代を担う若い人たちに改めてメッセージを発したいのです。どうか皆さん、一緒にこのメッセージについて考えていこうではありませんか？

2022年10月

川田 龍平

龍平・生き抜く勇気を——いのちを守る世界をつくるために——

川田 龍平 著

# Ryuhei

Courage to Live It

—Making a World to Protect Our Lives—

Kawada Ryuhei

川田 龍平 著

編：Nara Katsuyuki 奈良 勝行  
Kashimura Mineko 柏村 みね子  
Sarah Brock サラ・ブロック

どうせ死ぬなら、  
世界を変えてやろう

26年前、国と製薬企業を相手に闘い、歴史的「和解」を勝ち取った薬害エイズ事件のリーダー川田龍平が、不安だらけの時代を生きる若い人たちへ贈るいのちのメッセージ

堤 未果 (国際ジャーナリスト)

高文研

KOBUNKEN